利根川とおしょう油の歴史

五年　涌井　大輝

坂東太郎のあいしょうで親しまれている利根川は、長さ三百二十二キロメートルで日本で二番目に長い川です。その源流は、奥利根の新潟県境からなり、千葉県の銚子で太平洋へと注いでいます。かつては、日本一内陸水路の盛んな川でした。現在は、鉄道が各地とつながり、通る船はなくなりました。

ところで、私のお父さんは、千葉県野田市のおしょう油会社で仕事をしています。野田市にはおしょう油会社がたくさんあります。それは、利根川と関係があるとお父さんとお母さんから聞いたので調べてみました。

千葉県の野田市や銚子市でしょう油が特産品となったのは、利根川に接し、物資の輸送に便利だったからだそうです。江戸時代は、しょう油作りに使うこく物や塩などの原料を運ぶのにも、出来上がった品物を運ぶのにも、船で運ぶことしか出来ませんでした。例えば、

アピカ　20×20

野田で作られたしょう油は、江戸まで高瀬船で約八時間かかったそうです。しかし、明治三十年代から、利根川ぞいの都市が鉄道で結ばれ、船による輸送はしだいに鉄道に、さらにトラックへと変わっていきます。

こうして、江戸の人々の好む濃口しょう油は、その製造の中心が野田市と銚子市で栄えていったそうです。

利根川の別のすがたは、あばれ川として利根川ぞいの町に何度も大きなひがいをあたえていました。こう水のたびにその流れを複雑に変えている川でもあるそうです。しかし、関東の人々の大切な水源である利根川に、私達は今もたくさんのめぐみを受けています。

私はこのことを調べて、関東の人々の大切な水源である利根川を汚さないで守っていかなければなと思いました。